



高知県におけるミナミキイロザミウマ の薬剤感受性



写真1 ミナミキイロアザミウマ成虫



写真2 ナス果実の被害

表 ミナミキイロアザミウマ幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果（補正殺虫率・％）

供試薬剤	希釈倍数	キュウリ			ナス	キュウリ への登録
		黒潮町	土佐清水市	南国市	南国市 ¹⁾	
		2007年 ²⁾	2006年 ²⁾	2006年 ²⁾	2006年	
アグロスリン乳剤	1,000	5	16	65	88	○
アドマイヤー水和剤	2,000	43	45	88	100	○
アルバリン顆粒水溶剤	2,000	64	92	100	100	○
ダントツ水溶剤	2,000	95	100	100	100	○
バリアード顆粒水和剤	4,000	61	23	65	100	○
スピノエース顆粒水和剤	5,000	13	8	18	100	○
アフーム乳剤	2,000	100	100	100	100	○
コテツフロアブル	2,000	64	82	100	100	○
ハチハチ乳剤	1,000	100	100	100	100	○
プレオフロアブル	1,000	100	100	100	100	×

注) 数値が大きいほど薬剤の効果が高いことを示す

1) 1998年場内で採取後、室内で無淘汰飼育した個体群を2006年に検定した。

2) 個体群の採取年および検定年。

ミナミキイロアザミウマ（写真1）は、ナス、キュウリ、ピーマンなど多くの作物を加害します（写真2）。特にキュウリやメロンではメロン黄化えそウイルス（MYSV）を媒介することから、本種の防除が重要となります。そこで、県内（キュウリ3ほ場、ナス1ほ場）で採取したミナミキイロアザミウマに対する主要10薬剤の殺虫効果を調査しました。

その結果、殺虫率が95%以上と安定した効果を示したのは、ダントツ水溶剤、アフーム乳剤、ハチハチ乳剤、プレオフロアブルの4剤のみでした。また、アルバリン顆粒水溶剤、コテツフロアブルも比較的高

い効果を示しましたが、殺虫率が70%以下と薬剤に対する感受性のやや低い個体群も見られました。他の4薬剤では殺虫率が50%以下の個体群が見られ、効果は不安定でした。

このように薬剤抵抗性の発達がみられ、有効な薬剤に限られる現状では、薬剤のみによる防除は困難と考えられます。このため、当センターでは土着天敵の利用など生物的防除法についての研究を進めています。

（昆虫担当 伊藤政雄・古味一洋

088-863-4915）